

令和2年第12回 全員協議会要点記録

日時 令和2年8月21日 9:53~12:25

出席者 議員9名

町長、副町長、阿部総務財政課長、滝澤総務財政課参事、大川企画課長、  
齊藤議会事務局長

議件：(1) 寿都町の将来へ向けた人口推計と財政状況について

議長	あいさつ。 それでは、議件に入りたいと思います。
越前谷議員	議長。それに先立って皆さんにお話ししたいことあるんですけど、よろしいでしょうか。
議長	まず、案件に入ってから。ちょっと待ってください。
町長	いいんじゃないですか、先にやりたいて言うんだから。
越前谷議員	さっき、議員の皆さんにお話ししたんですけど、町長来たので改めて。今回の、文献調査応募検討により、町長は我が町寿都町を、近隣町村をはじめ後志、北海道において、寿都町を孤立化させてしまった感があります。この責任は重大であります。直ちに町の危機的状況を解消し、この問題の收拾を図らなければならないと思います。 町長は、発言を撤回すべきと思います。この問題の要因が洋上風力実現のためとはいえ、町長が思うように事は運んでいないし、ましてや、核のごみ受け入れを希望する町という全国的に悪いイメージのレッテルを張られた訳でありますから、ここは一度原点に立ち戻って考え、話し合っていく必要があります。町長に議員全員で撤回を要求すべきと考えますが、よろしくお願いします。以上です。
議長	はい。それでは説明員。企画課長。
大川課長	本日は大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。 来週26日に開催の議員及び産業団体代表者とのエネルギー政策に係る意見交換会に先立ちまして、当日の説明と重複する内容ではありますが、本町の将来へ向けた人口推計と財政状況について、議員の皆様へ説明させていただきたいと思います。 まず、資料上段の人口ビジョンで推計した寿都町の将来人口についてありますが、表中、下側のグラフは国立社会保障・人口問題研究所（通称：

社人研)が平成24年に全国の市町村の人口を推計した将来の寿都町の人口であります。

若干、人口の減少率が緩やかになっている上段のグラフが、平成27年度に策定した寿都町人口ビジョンの推計になります。

この寿都町人口ビジョンの推計を達成すべく、総合振興計画や寿都町総合戦略などで基本目標を定め、将来に向けまちづくりの各種事業を検討し、実施していくこととしており、本資料では、今年度からスタートした第二期の総合戦略の基本目標を記載させていただきました。「仕事をつくる」「ヒト・モノ・カネの流れをつくる」「出産・子育てしやすいまちづくりを推進する」「人と地域をつくる」のそれぞれの目標を達成するため、各種事業を進めているところであります。

なお、人口ビジョンにおける人口推計では、令和2年の寿都町の人口は、2923名と推計されていますが、今年の4月末現在の人口は2911名となっております。更なる事業の推進による人口減対策が求められているところであります。

次に財政状況についてであります。資料の下段に今後20年(令和22年まで)の推計を概数として百万円単位で示しております。

歳入については、先に説明させていただいた人口推計による人口の減少などから町税及び地方交付税を推計し、また、現在、まちづくり全般において貴重な財源となっている、ふるさと応援寄付金事業については、新型コロナウイルス感染症対策等における、国及び都道府県をはじめとする各自治体が財政的な負担を強いられたことによる、制度自体の今後の見通しが明確ではないことや、風力発電事業についてもフィット法の買取契約期間が令和7年度以降、順次終了していくことなどから、今後の対策が求められている中、いわゆる、一般財源が大きく目減りする状況と推測しております。

一方、歳出であります。経常的経費の各年度の増減については、主に公債費(国などへの借金の返済)の償還計画を考慮し、投資的経費については、普通建設事業における現在、計画、検討されている事業について、概算事業費を反映させた推計になっております。

投資的経費の令和4から5年度及び令和11から12年度の金額が増えている要因であります。また詳細は決まっておきませんが、主要懸案事項となっている特別養護老人ホーム及び清掃センターの施設老朽化に伴う更新について、それぞれ仮の実施年度として落とし込んだものがありますが、事業費及び地方債の発行に伴う償還など、今後の町財政に大きな負担となることが予想されるとともに、経常的費用では、毎年度、予算特別委員会でお示ししているとおき、町単独で行ってきた教育・福祉関連などをはじめとする各種事業や各産業団体への補助金などの中には、これまで、ふるさと応援寄付金事業や風力発電事業における売電益などを充当

し行っているものもあり、簡水・下水道会計など特別会計への繰出金などと合わせ、今後の歳入の減少推計とを差し引きすると、令和7年度には基金、これは町の貯金のごとでございますが、残高がなくなるなど非常に厳しい推計をさせていただきました。

前段申しましたとおり、歳入の見通しが非常に厳しい中、これまでどおりの住民サービス、産業団体への支援などに加えて大型普通建設事業が迫っているほか、さらに、国や都道府県・市町村における新型コロナウイルス感染症対策の負担が、今後、全国の自治体への大きなしわ寄せとなることが想定され、あらゆる財源確保に早急に取り組んでいかなければならない状況となっております。

本町では、現在、後志岩宇・南後志沿岸町村と洋上風力発電施設の導入に向け事業を進めているところであり、国から事業化に向け一定の評価をいただいている段階に進んでいるところではありますが、今後、設備に係る固定資産税や事業者からの協力金などの歳入を見込めるまでには相当の年数が想定される中で、町議会議員及び産業団体の代表者とのエネルギー政策勉強会における「国からの自治体に対する支援制度」の中で、「高レベル放射性廃棄物の地層処分事業」の取り組みについては、比較的早い段階で財源を得られる可能性を見出すことができるものであり、各産業団体の若い世代の方々にも説明すべきとの意見をいただいた中で、先日8月7日に研修という形で役場全職員及び各産業団体の若い世代の皆さんにも本資料の説明と合わせて地層処分事業に係る説明をしたところであります。

研修会終了後に、出席者の方々からアンケートを取らせていただきましたので、その結果について報告させていただきます。

回答につきましては無記名方式で、役場職員87名、産業団体の若手の方々20名となっております。

まず一つ目は、将来人口、財政状況の推計についてどのように感じたかという質問に対してです。

「大変厳しい状況に直面している」か「その他」かという質問への回答は、役場職員は「大変厳しい状況に直面している」が87回答中82名(94.3パーセント)、「その他」が5名(5.7パーセント)となっております。

自由記載への意見としては、「全国的、特に過疎地域はこの自治体も厳しい」「現在は風力発電やふるさと納税でカバーできているが、この状況がいつまで続くか、新たな財源の確保が必要」などといった意見が寄せられました。

続いて、産業団体の若手の方々につきましては、「大変厳しい状況に直面している」が20回答中19名(95.0パーセント)。

「その他」は1名(5.0パーセント)となっておりますが、その内容

は「歳入がここまで減ると推測できる根拠が詳しく分からないが、数字だけ見れば厳しいと思う」との意見でした。

二つ目の質問につきましては「地層処分事業の文献調査から概要調査までを受け入れることで、最大90億円の交付金が想定できるが、調査の受け入れがその先の処分場の建設に直結するものではないことを踏まえて、交付金を活用した財政運営についてどう思うか」という問いです。

役場職員からは「調査を受け入れるべき」が87回答中53名（60.9パーセント）、「現状の歳入を見据えて事務事業の見直しや工夫で乗り切るべき」が26名（29.9パーセント）「それ以外の方法」が8名（9.2パーセント）となっております。

「それ以外の方法」と回答された方からは、「地層処分の事業調査を受け入れるのも一つの方法。それと同時に事務事業等の見直しも積極的に進める必要がある」、「各団体、生産者、町民、役場で検討が必要」「事業の調査を受けながら事務事業の見直しが必要」といった意見が寄せられました。

産業団体の若手の方々からは、「調査を受け入れるべき」が20回答中15名（75.0パーセント）、「現状の歳入を見据えて事務事業の見直しや工夫で乗り切るべき」が5名（25.0パーセント）となっております。

最後、三つ目の質問につきましては、研修会に出席して思ったことを自由に記載いただきました。

役場職員で「調査を受け入れるべき」と回答した方からは、「町財政や地域経済に有効」、「交付金の有効活用を」など前向きな意見が多くを占めたほか、「今後も同様の研修会継続の必要」や「将来を見据えた適切な財政運営を」などといった意見が寄せられました。

また、「現状の歳入を見据えて事務事業の見直しや工夫で乗り切るべき」と回答された方からは、「厳しい財政状況は理解しつつ、安全性の確保が担保されていない」、「メリットの話がメインでデメリットの話をもっと詳しく知りたい」「自然環境への影響が不明。悪いイメージが町のイメージダウンにつながるのでは」など不安感を挙げる意見が出されています。

双方共通の意見としては、「情報の共有や理解を深めるための場の必要性」を挙げる意見が多く寄せられています。

なお、「それ以外の方法」と回答された方の中で「自分たちで使用したエネルギーのごみなので必ずどこかで引き受けなければならない。こういう施設の安全性は100パーセントとは言わないが、相当な調査をしてあらゆることを想定して作られると思うので、雇用の面や最先端の技術者が集まってくることを考えるとメリットしかない」という意見がありました。

次に、産業団体の若手の方々のうち「調査を受け入れるべき」と回答した方からは、「受け入れは町の財政を考えるとよいこと」「財源がなければ

	<p>何もできないことは理解できたが、情報のコントロールが重要。対外的にどう発信していくか」「近隣町村の意見や将来のまちづくりの課題は何か。交付金でどのような施策を行っていくのかを説明できれば調査の受け入れには賛成」といった意見、また「現状の歳入を見据えて事務事業の見直しや工夫で乗り切るべき」と回答された方からは、「調査を行った時点から、世間からは寿都町イコール放射能のイメージがついてしまう。最終的に処分場になるわけではないとしても寿都ブランドに傷をつけてしまうのではないか。」「調査を受け入れるだけでも十分に風評被害は出る。町がバッティングを受ける。処分場ができるかもしれない不安や批判の的になる不安を町民が持つことがまちづくりの推進につながるか疑問」といった意見、共通意見としては「情報の共有、まちづくりへの参画と、風評被害の不安」といった内容が寄せられています。</p> <p>以上、アンケートの結果について、報告させていただきました。</p> <p>なお、冒頭説明させていただきましたとおり、推計資料及びにアンケートの結果つきましては、今月26日に開催の寿都町エネルギー政策に係る意見交換会（議員及び産業団体代表者対象）でも同様の説明をさせていただきますので、御了承願います。以上で私の説明を終わります。</p>
議長	<p>説明が終わりました。</p> <p>町長何か補足して説明ありますか。</p>
木村眞議員	<p>ちょっと、その前に。今の説明のアンケート結果って何か紙で配布になるのか。できれば、配布してほしいんですけど。</p>
町長	<p>コメントも含めてですか。</p>
木村眞議員	<p>そこまで詳しくはなくても。</p>
幸坂議員	<p>コメントも欲しいです。</p>
大川課長	<p>26日の日にお配りさせていただく形でもよろしいでしょうか。</p>
友山議員	<p>できれば、今日あれば。</p>
町長	<p>コピーとらせて。(配布して)</p>
議長	<p>町長何かありますか。</p>
町長	<p>ほとんど、今お話ししたことに尽きるんですが、私の方から一言付け加</p>

えるとすれば、ちょっと話長くて歴史の話になって申し訳ありませんけれども、私が就任した平成13年、14年、小泉政権の三位一体の改革、皆さん記憶も新しいことと思います。あのときの寿都町の状況というのは、平成7年にここの文化センター、そして同じ年に温泉、そしてプール、大型事業がですね、若狭町長のときに連続してやられたということも皆さん御承知のことと思います。その後、返済というのが非常に厳しい。あの昭和55年、統合中学校のときもそうですし、何か大きな事業をやると10年くらいほとんどほかの事業ができない、住民サービスもさほど潤沢にできない、こういう財政というのが寿都町の基本だったということ、まず皆さん理解はしていると思いますけど、改めて知っていただきたい。

そして、交付税の積算のあり方なんですけど、同じ人口、まあ黒松内と比較して、例として挙げますけど、面積が黒松内は広い、道路延長も長い、いろんな積算、農地面積もある、いろんな積算方法を積み上げるとスタートラインで3億違う。黒松内と寿都。この3億のハンデというのが、ずっと合併当時以降、これがずっと寿都の財政のスタートだということも皆さん基本に頭に入れて、まずはいただきたいと思います。その中で平成14年の三位一体の改革、少ない中でまた1億超える削減がされた。だから給料も払えない、借金も払えない、ここの文化センター、平成7年に建てて、返済が終わったのは平成27年です。20年かかっている。そういう状況の中で、今回、このコロナの影響というのは、もうまさに寿都町にもすべての産業において影響が来ています。国も補正予算付けてくれました。いろいろな事業を万度ではなくても今年補正予算でいろいろな支援をしていただきました。そして、これからも支援が続くのか、私は多分厳しい状況だろうなと。そして、今まで国の借金って相当膨らんでいます。景気が良くなりましたって言ったって、田舎にまで良い景気が来るのは、ずっと遅いです。ところが、不景気になったら、田舎からすぐ不景気が影響受けます。これも歴史の流れの中で皆さん御存じのとおりだと思います。

このコロナの影響は、多分復活するまで私は、来年もこれずっと続きますし、多分5年。来年ワクチン、薬は開発されたとして、ある程度沈静化になったとしても経済が元に戻るまでに、黙って4・5年かかるだろうと。諸外国よりも遅くなるだろうというのが、色々な番組を視ているといろんな評論家が日本の復興は相当遅れるでしょうねと、お話をしている人が多いです。そうしたときに最悪寿都町を例に挙げると、今はいいですよ、ふるさと納税、また、風車の利益も後半5年で平均3億5000万って言ってますけど、2億増えます。元金払わなくて良い訳ですから。しばらくはいいですよ。だけどふるさと納税は、多分私が大都市の首長だったら、国に必ず抗議します。企業から税金は納められない。住民税は一部かもしれないけどふるさと納税で抜かれる。冗談じゃないって、多分、総務省に多くの大都市の首長は抗議するでしょう。だからゼロにはならないとしても

魅力のないふるさと納税に形が変わらざるを得ないのかなど。そうしたときに、今、11億、今年はこのコロナの影響で自宅での生活が良い影響でふるさと納税は推移していますけど、これが魅力なくなれば、誰もふるさと納税しないかもしれない。後から気付いたときに、気付いてどうしようっていったときに、もう時は遅いです。

だから、平成14年に逆戻りするんじゃないかって心配でならないんです。皆さん、私に期待するのは今までもですよ、国から良い交付金、補助金見つけてこい。皆さんいつも思っているじゃない。私もそのつもりで、いろいろな有利な交付金を探しに東京へ行ったときは頑張って、今までもより有効な形で、私は事業を議員の皆さんも理解の中で、今まで進めさせていただきました。いろんな交付金取ってこいって皆さん言います。この核のごみも交付金です。確かに耳障りは悪いかもしれない。ここは入るまで議論いくっていう訳じゃないですから。餡玉だ云々っていうかもしれない。私は今の時期30キロ圏の後志寿都町。この勉強したから私はですね、この入り口があって出口がないこの日本のだらしなさ、これずっと先送りしてきたんです。この案件は。

そしてこのコロナの凄いこれからの影響、ここのタイミングで私は国に恩を売る、こんなタイミング二度とないですねって、これはビジネスです。このビジネスを駄目っていうのか、いわないのか。寿都の運命がかかっているんです。私は、前からも言っているように、文献入ったらゆっくり核の勉強もしましよと、まちづくりの勉強もしましよと。これからの若い世代にどうやって、これからの寿都町の生き残りを賭けて皆さんに議論をしていただく、これもこんなチャンス無いです。ちょっと刺激があり過ぎたかもしれません。この核のごみという案件が。けども今、多くの反対者は風評被害、風評被害って皆さんいいます。あなたたちが風評被害ですって私は思っています。寿都に何かあったら、今反対者は寿都を助けてくれますか。今反対者は、寿都を陥れようとしている。冗談じゃないと私は思っています。いろんな考え方があるでしょう。すべてビジネスです。ビジネスがうまくいかなかったら町長必要ないんですよ。私はそういう思いで、今、この核のごみの勉強、去年からいろいろエネルギー政策勉強会をやってきましたけど、この勉強会が大いに寿都町の発展につながる勉強会に繋げていきたいですし、若い世代に不安のない繋ぎを私はしていきたい。もう引退間近になった年齢で、好き好んでこんなにボコボコにされることをやっているのが私のこの性格。大人しく去った方が自分自身、安泰ですよ、それを覚悟をもって私は今やらさせていただいていることを御理解願いたいと思います。私からは以上です。

議長

どなたか何かありますか。

先程、友山議員手を挙げていたが。

友山議員	資料のことです。
議長	距離取れていますから、マスク外してもいいんじゃないですか。聞こえないんですよ。
沢村議員	越前谷発言が先かな。それから今企画課長が説明をして町長が報告したものに対する意見・質問が優先かな。どちらか決めてくれないと議長。
議長	それらに対して質疑を皆さんありましたら。
沢村議員	どっち。越前谷議員から発言あったでしょ。議長決めてくれないと。
議長	核のことにに関して、その他で入るということでいいんじゃないですか。これはこれで、一回閉じます？人口推計と財政の状況。これに対してまず。
越前谷議員	これに対していいですか。人口推計と財政の状況。第8次寿都町の総合振興計画ってあるんですけど、
沢村議員	ちょっと待って、今の説明に意見があるんなら、俺が一番先に手を挙げた…俺にさせてくれないか。
議長	ちょっと待ってください。
沢村議員	人口の問題それとも最初の話した原発の核のごみの問題、どっちなの。
越前谷議員	私ですか。 私今、この人口推移と財政状況についてどうなのかってことです。
議長	議案どおりの順ですね。
副議長	さっきあの、越前谷議員から発議あったものを、今初めて聞いたんだから、まず今日の案件のこの人口推移と財政状況をやってしまってから、後でやった方がいいんじゃないですか。皆、ごちゃごちゃになっている。  (沢村さんが先だったという発言)
議長	ちょっと聞き取れなくて、発言するとき皆さんマスク外してください。沢村さん、この件に関してですか。



沢村議員	そうです。
議長	それならちょっと待って、沢村さんが先だった。 お願いします。
副議長	きちっと整理しないと。
議長	沢村議員が先だった、ごめんなさい。
沢村議員	<p>議長の許しを得て、マスクを外させてもらう。酸欠になると困るので。冒頭、私事で申し訳ないんだけど、実は、12日に私のいとこの旦那が救急車で小樽の私立病院に運ばれたんですよ。で、12日に運ばれて17、18日って実は小樽の私立病院に行っているんですよ。それで、うちのやつには自粛させているんだけど、市立病院のお医者さんの方からは、俺の方に直接電話が来て、沢村さんの行動の状況から言うとPCR検査も日常の仕事もそのままいいですよとされているんですよ。何か気になったら倶知安の保健所にいってくださいと。こう言われて倶知安の保健所にもかけたんですよ。そしたら沢村さんのような状況ならPCR検査も要らないし、普通の状況で接していていいですよとされたんだけど、市立病院でその後クラスターが出ているんで、うちのやつには女性会かなんかあるんだけど自粛させてるんですよ。自分も今日自粛しようと思ったんですけど、町の西課長に話をしながら、状況報告して、実は今日こういうのがあるんだけど。皆さんに申し訳ないんだけど、創作活動室だったがこういう形（ホール）でやらせてもらっているということに、まず感謝を申し上げたいと。私の状況報告もそういう形でしておきますので。大丈夫と言われてますけどできるだけ私には近寄らないようにして。</p> <p>寿都町の第1号にはなりたくない。市立病院に行ってるものだから。そういう状況を報告させていただきました。</p> <p>それでは本題の企画課長から人口の将来展望と財政の問題と二つ提案されました。私も行政マンでないから深いところまで中々難しいんだけど、だいぶ前にもこの人口推移のやつ説明を受けているんですけど、私はこの人口推移は町民のあるいは寿都町の生活している生活動態や現状なども分析すれば、一言では言えないんだけど、例えば、お年寄りには自然体になってことになると思うんだよ。そしてまた、寿都高校もあるんだけど、若手の人方も、寿都の企業の人方もある程度頑張ってる雇用の確保をやりながら進めてきている。しかし高校卒業して社会人になるのに寿都町で全員の雇用をできる環境にない訳だから、そういう意味では、若い人がいないということは出生率も悪くなる、子どもの減少も繋がっていく、そうい</p>

うのが自然体として、どこの町村にでもあることであって、寿都だけが過疎化や人口減少が特異だというふうにはならないと思う。そこは一つ押さえていただいて、なおかつ、人口問題と関連して、今の核のごみの議論をするつもりもないんだけど、してもいいんだけど、核が、仮にごみ処理、高レベル放射性廃棄物の最終処分場を造ったからといって、寿都の人口が増えるとは思わないですよ。それで、核のごみ処理をする、携わる業者は増えると思う。仕事人が。だけど寿都町に風評被害も含めてそんなの入るっていったら、若い人はここでは働かないだろうし、結婚して若い人が子どもを産んで、核のごみのあるところで育てようという気にはならないというふうに思うんです。だから私は、人口の問題と核の問題とはリンクしないんだと、かえって逆に過疎化に拍車をかける、そういうふうには私は思っております。行政マンではないから。それで私共はこれまで、寿都町の人口をどう増やすかということで、それぞれつい最近では、農業ハウスでバジルをやりながら、あれだって機械設備を4棟分のボイラーをつくって、4棟建てれば結構な雇用力があるなど、こういう形で皆説明を受けて一生懸命協力しながらやってきている訳。確かにそういう意味では爆発的な雇用力はなくても、寿都町は寿都町の中で、そういう環境の中で雇用対策をしているのと、また併せて漁業従事者もそれぞれ後継者やら新しい人など含めれば、町も財政支援をしながらそういう人方を新たな漁業の従事者にしながらやっていって少しでもそういうふうなものをやろうとそういう形になっていると思うんです。寿都町のやってきている8次なども含めた多様な中で人口問題はきちっと。とりわけもう一回元に戻すと私共はこれから寿都町の将来ビジョンの勉強とか人口の今後将来どうなるといった分析だとか、あるいはそういう問題をいろいろやっていないしね、お願いもあるんですよ。核のごみが入ると人口が増えるというんだけど、確かに質は違うけど、幌延の研究機関とかあるいは泊の原発とかあるいは全国あちこち原発の稼働しているところで、そのよーいどんとときに住んでいる生活動態がどういう形になっておって、皆賑わってそこに雇用力があるというけれども、そここのところにどれだけの元々住んでいる人方がどういう人口流動体系になっているのか、それをちょっと調べて、報告をお願いしたいんです。なぜかというとならぬと、原発が入ると、原発が入る訳じゃないけど核関連のものが入ると、ものすごい潤って明るい未来が築かれるようなことがどんどんいわれるものだから、全く自分自身で考えてみても、そうはならないなっていう感じがするんです。だから私は少なくとも人口問題はオーソドックスに与えられた町の環境の中で、とりうる努力の中で、人口問題は議論して対応していくのが正しいんじゃないか。

それから、財政問題で2、3お話ししたいと思うけど、財政問題は町長が言うように俺らもなったときは大変だった。町長がなったときが一番大変だったと思う。どこ歩いても、町歩いても金のない町長といわれている

のは間違いないんです。だけどそういうところから苦勞しながらでも、ある財源の中で寿都町をどうしようかとやってきて、今は、風力発電事業だとかふるさと納税だとか、この先の議論は別にしても、そういうものでずっと補ってやってきたことは間違いないんです。今、我々が一番大事なことは、これから先こういう環境になるって分かって、どういう形で皆でこの寿都町の町をどういう未来像にかけながら、どういう辛抱もしてもやらなければならないことをどうやるかということ、ちゃんと議論しないと。それがあたかも原発のごみ処理の90億を目の先にあるからやらないばならないということが私にはどうしても分からない。どうしても私は、財政問題は交付金と寿都町の努力でできる範囲の中で、身の丈にあった寿都町運営をしないと、何か目先にそういうものやっけていいというふうにはならない。

この人口問題や財政問題をやるに当たって、まだまだきちっと体制を整えながら皆で勉強して、どう寿都を作るかと。とりわけ、第8次なんかでもそうなんだけど、今までも皆にいつてきたんだけど、やはり寿都は寿都湾を育て育んで、漁業を充実させてそして水産加工業を多用しながら、それぞれ進んでいこうという、だいたい何年もやられてきたことでしょう。それが急に財政がないから、核のごみの90億でっていうふうになるんだけど、ここはまだ核のごみの問題は、後で議論もしたいというふうに思うんです。わたしはまずは核のごみの考え方は、その他の方でやりたいというふうに思います。とりあえずは寿都町の説明あった人口問題と財政問題をこの辺を第8次の総合計画を含めて作ったばかりですから、これらのものを何も深まった勉強や議論もしていない中で、急にそういう形に収めるなんていうことは、私はちょっとできないんで。それだけは先に提起をしておきたいと思います。議長以上です。

議長

いいですか。町長。あ、企画課長。

大川課長

私の方から人口推計のお話が今出ましたので、お答えさせていただきたいと思います。今回のこの人口推計、将来展望ということで人口ビジョンの推計を載せさせていただきました。この人口推計には沢村議員がおっしゃられたとおり、今回の処分事業に係る人口の動きというのは反映しておりません。あくまでも27年度に人口推計をした人口ビジョンの推計結果となっております。今回この表を載せさせていただいたのは、後段で財政状況の推計に繋がってまいりますので、この人口減が町税の減ですとか地方交付税の減に繋がっていくんだよというような資料として、人口ビジョンの推計結果を載せさせていただいておりますことをまずは御了承いただきたいと思います。ですので、今後この処分事業がどういうふうになっていくのかということについても、人口推計にはのせておりません。今

後、今沢村議員がおっしゃられた、幌延町の人口がどういうふうな動きをしたのか、ほかに全国いろんな自治体でこのような事業に取り組んでいるところもございますので、タイミングを見て聞き取りなんか、企画サイドなのか財政サイドなのかというところはあると思いますが、関係自治体なんかとも話をさせていただきながら、地元の人が減ったけども企業の人が増えたとか、どっちも増えたとか、そういう分析もあると思いますので、その辺をちょっと勉強させていただきたいというふうに思います。

議長

町長何かありますか。

町長

沢村議員の今の状況の中で工夫をすべきだという話、それも一つの考え方だというのは分かりますけれども、相当の逆に劇薬を来年からやらないと、この推計を見たとしても、今、ふるさと納税ある風車ある、だから、大丈夫とは思っていません。この中には、今回のコロナの国からの来る交付税もし削られたらこの数字はもっとひどくなります。今までと同じように交付税が少ない中でもスタートライン3億違う中でも、同じようにずっといくとは思っていません。まず削られるだろうなど。最悪の状態で行政は行財政運営を心掛けないと駄目なんで、決して脅しだとかそういうんじゃない。そして、そういう決意の中で皆さんがその道を選ぶっていうのであれば、私はその道も一つの方法だと思っています。決して私は、核なかったら駄目だよって思っていない。皆さんの意見を聞いて私は最終判断するって言っていますし。けども、今、申し訳ないけど綺麗事でまちづくりをしようとしたときに、来年から相当の痛みを皆さん感じてもらいますよっていう説明会も。そういう最終判断するってなったときにすぐに住民説明会をします。水道・下水道だって、今、特別会計皆さん御存知のとおり、下水道そのもので自立できていない。1億3、4000万、一般会計から繰り入れしなかったら下水道成り立っていない。これしたら皆の負担でやりましょうと、ここはすごく重いかもしれないけど、住民サービスほかにたくさんあります。学習塾も約3000万予算付けました。いろんなものあります。バスも何でも使っているですよ、今、約4000万、年間使っています。こういうものも全部もう一回洗いざらい締めていく、そうしないとこの△というのは平成（令和）7年から出ていますよね。今いいからいいんじゃないんですよ、そういう厳しい状況。だからコロナの考え方、影響を皆さんどう考えてらっしゃるかということで、相当この町の進め方って違いますよっていうことを、まず皆さん知っていただかないと。相当の覚悟ですよ。もし今のままでいくと。交付金に色は付いてません。飴玉でどうのこうのっているいろんな人が言います。いいじゃないですか飴玉でも。その中で沢村さんが言うように、これからの産業振興どうするんだ、町づくりをどうするんだ、人数減っていった中でもやはり基幹産業の漁

業・水産加工というものしっかり支援していかなかったらならないよね。そうしたときに基幹産業、漁業・水産加工っていいですけど、ここでしたらこの町を支えているのかと。税金ですよ、支えているのは。今、寿都で一番税金多く払っている職種、皆さん何だと思います。公務員ですよ。役場、警察、学校の先生。その次どこだと思います。漁業・水産じゃありません。福祉です。そう考えていったときに、だから、税金沢山払っていないから云々って訳じゃないですよ。そこを支えるにしても資金が要るんですよ。どんどん目減りしていったときに基幹産業の漁業・水産加工を支える資金がなかったら支えられない。その支える資金を作りましょうっていったら住民皆さんのサービスも含めて、皆負担しなきゃ駄目だ。サービスを減らさないと駄目だ。総合的に沢村さんがいうように議論しなきゃ駄目だというのはもっともな話で、だから私は、いろんな考えがあるでしょうけれども、いただくものいただいて議論しましょうと。

(沢村議員：駄目)

そういう考えもあるんじゃないですかっていうことなんです。

沢村議員

いい、議長。

議長

はい。

沢村議員

今、町長からいろいろ言われたんだけどね、この中で9人の議員がいてさ、その財政状況が町長言われるようにさ、あれもできないこれもできないって数字やなんか持っている？だから私は、町づくりに併せながら人口問題もしかり、財政問題もしかり、ちゃんと出してもらって、それが町民が、それを受けるか、受けないか、それ以降の話でしょう。財源90億。先に90億もらうって、いいかい町長から大変な目に合うって脅しかけられてさ、それから水道の問題だって自前でやらないば駄目だって脅しかけられてさ、それから、コロナの影響でどうなるか分からないって、コロナは寿都だけの問題じゃないでしょう。どこだって同じですよ。だからそういう意味で言葉で脅しかけられても駄目だと思うんですよ。やはり理念と財政とこれから町民に何を迷惑をかけて、あるいは町民が何をうんと言わないのかを見極めて、それで新たな財源をどうするのかって。ここからちょっと逸れるんだけど、私ども、今エネルギーの勉強会やっているよね。このエネルギーの勉強会ね、洋上風力を建てるのがメインだったんですよ。違うの？勉強会で90億の財源の問題に入っていく訳？これがよく分からないんです。

エネルギーの勉強会は、洋上風力を岩宇から南後志にかけて建てて、その洋上風力の利益を生むためにいろいろやろうというのが発端のエネルギーの勉強会だったんですよ。私は決して、核のごみ処理を入れるための

勉強会なんてした覚えない。

次に、仮にそうだとしたら私ども皆ね、核のごみを入れる資料誰か持っていますか？町から提案されたもの誰か持っていますか。誰も持っていないんですよ。私は、洋上風力のところだって町長に言ったはずなんですよ。洋上風力の目的やどこが会場でどこが主軸で、どこが事務局でどういうような風力発電をするかちゃんと出してほしいと言ったら、あなた出すって言ったんだから。まだ、出てないんですよ。そんな洋上風力をきちんとやるって言うのに、何もやらないでさ、洋上風力がどっかに飛んで行っちゃってる。それで寿都町の在り方や寿都の未来も語らない、財政もどうかということもやらないで、90億に飛び込んだってなったら本当に経産省を怒りたいくらいだ。新聞紙上に出ているように、金で寿都のほっぺたを叩いているみたいなものです。しかも最近の新聞見て分かったとおり、あんなの開き直られると困るんだ。やはり寿都町民として、島牧や黒松内に、後志や北海道の全体の中で生きてるんですよ。このことをねちゃんとやらないと町長おかしいよやっぱり。絶対おかしい。90億に目がくらんで、寿都町のためだっていったって、甘い汁は許されない。絶対許されない。あんたの言うことずっとやってる。うがった話をすれば、あなたもきっと被害者かも知れない。俺から言わせれば、経産省の手の上で遊んでる。みてごらん、あの文書。ずっとやってきたこと文書。全部あんた経産省とエネ庁とニューモにあれされてるんでしょ。だから私はそうは言わないけども思わざるを得ないんです。あなた一人でできる訳がない。そこは疑問視する。道も敵にして。やるんだったらやってもいいけど、最前線として住民の投票をやらない限り、住民の意思を聞かない限り、私は承認できない。寿都町が潰れたって何したって、この90億なければ潰れるんであれば皆で我慢しながら、霞を食ったって、この原発・核のごみは入れられない。どんなことがあっても入れられない。子々孫々の代まで、しかもこれ入れたらね、漁業も水産業も何もかにも全部潰れちゃう。ふるさと納税なんて、原発のあるところのふるさと納税なんて来る訳がないでしょう。そうではなくてもっと寿都の良さを水産業の良さを加工業の良さをどんどん全国にピーアールしながら、今が10億だったら15億でも20億でもやるような施策を講じるのが町長でしょう。そうじゃないですか。

以上、ずれたことはずれたんだけど。

議長、一言だけある。今日、全員協議会で人口問題と財政問題で恐らくいま議論されているように、核のごみ処理の問題も出てくると思う。できれば、全員の意見をちゃんと聞いて、寿都町のための意見を聞くようにしてほしい。言う人だけが何人か言って、それで反対とか賛成とか判断できないから。最終的には住民投票やってそして、意見を聞いた上で検討してほしい。以上。

議長	町長何かありますか。
町長	皆さんの意見聞いてからにして。
議長	越前谷さんさっき挙手してましたね。
町長	議長、さっき言ってくれたんだから、一人ひとりから順番に。
議長	個々がどう考えるかという部分、あまり長くないように、演説にならないようにしながら、しっかりと今の考え方を話していただきたいと思います。
越前谷議員	<p>議長。沢村議員話したことで、あれなんですけど、人口推移と財政状況についてという順番で質疑受けるということで、それについて私ちよっとお話したいなと思うんですけど、いいですか。</p> <p>それについて、お話ししたい。</p> <p>沢村議員から続いて核のごみの入り口までしゃべっちゃったものだから、あれなんですけど。町の方からですね、企画担当で人口推移、財政状況ということでお話受けて、後で資料もいただけるということなんですけど。実際、沢村議員がおっしゃったように実際にこれからどういう事業にどれだけお金がかかり、どれだけの負担が生じてくるのかということ、やはりきちっと示していかないとならないと思います。どの事業を継続的にどういうふうやっていく、そういうものを全然示されない中で、お金がないんだ、ないんだっていても現実味がないんだと思うんです。もちろんあの事業やるこの事業やるっていう形になれば、どこの町村だってお金がないんです。このコロナの関係もありますけど。ですから、それをやはり、これはやるけれども、今回これは我慢するだとか、そういった議論も必要だろうし、事業の見直しもしていかなきゃならないだろうし、そういうことをやらないで、お金が足りないから、それじゃ別なお金の手段考えるんだってことにはならない。身の丈に合った、予算づくりというものもしていかなきゃなと思います。ですから、こういった事業別の表というのもきちっと作って示していただきたいと思います。</p> <p>それから、人口推移の問題ですけど、沢村議員もおっしゃったようにいろんな階層がある、産業構造によっていろんな階層があると思う。その産業構造によって、この辺についてはここで使われている、その人たちは10年後はこの辺になるだとか。そういう見方もですね、全体的にみるということではなくて、各産業別そういった見方もしていく、積み上げをしていく必要があると思うんです。</p>

	<p>ですから、人口の推移をこう見ている、実際それじゃこの中で農業はどのような状況になるんだ、漁業はどういうふうな状況になるんだ、商工業はどういうふうな状況になるんだ、そういったことを束ねて人口推移がこうなっていますよって示し方っていうのもしていくべきだと思うんです。以上人口推移と財政状況について概要をお話したんですけど。</p>
町長	<p>併せて、原発の話もした方がいいんじゃないですか。それが一番の問題ですから、今日の。</p>
議長	<p>そうですね、分けられないですね。 先程、沢村議員もおっしゃったように、今これから執行者側は各団体やら、あるいは個人やらに説明会開いていくんでしょうけれども、それぞれ、これは町民の問題ですから、寿都町の自治の問題ですから、町民が判断していくということに最終的にはなるかと。町民の声で。その上で、政治判断するという報道の中ではそうなっています。そういう流れになるのかなと思うんですけど。その中で、町民の声を聴きながら議会がまたどう判断していくかという、我々に課せられた責任であります。これからまた、町の状況によっては、皆さん最終的に腹を決めなきゃならないこともあるかと思えますけど・・・</p>
町長	<p>議長、ちょっといいですか。 あのね、私が、住民説明会するにしてもやはり、議会がどう考えているか、産業団体のリーダーがどう考えているか。産業団体の若い人たちがどう考えているか、そういうことをある程度前提に住民説明会しないと。だからといって押し付ける話じゃありませんよ。ここの議論は、ある程度議会としてどう考えるんだっていう進め方をさせていただきたいと思えます。</p>
議長	<p>分かりました。</p>
沢村議員	<p>議長。</p>
議長	<p>はい、沢村議員。</p>
沢村議員	<p>新聞報道ではそういうふうにあれして、要は核のごみを入れるっていうあれでしょう。前提でそういう話するって、それはお門違いでしょう。</p>
町長	<p>沢村さんちょっと、私、核のごみ、いつ入れるって言いました。</p>
木村眞議員	<p>そこまで飛躍したら駄目だ。</p>



町長	そこまで、なんで飛躍しないとならないんですか。
沢村議員	なんで。入れるための町民説明会をやるっていうんでしょ。
町長	違いますよ。
沢村議員	判断を求めるんでしょう。その入れるための判断を求めているんでしょ。
町長	違いますよ。いつそんな話しました、議会に。
沢村議員	だから、議会何てなんもないって。町民と同じさ。
	(静粛求める声) (それぞれの議員の意見求める声)
越前谷議員	ちょっと議長。手を挙げた人ばかりしゃべって、実際に議員皆さんの意見というのを汲み取れないと思うんです。沢村議員が先ほど言ったようにあまり私も手を挙げたいと思わないけれども、皆さんにこの問題についてはどう考えているか、議長に聞いていただければと思います。
議長	副議長。
副議長	私たちから言うのは、皆さん順番に意見聞いて。私たちは、まとめるような話したら駄目だ。皆の個々の意見を聞いて。
議長	友山議員。
友山議員	8月13日の■■■に出たことで、私も初めて文献調査をするということを知ったので、僧侶ですからお盆の間中100何件かお参りに行った中で皆さん関心がものすごくあります。どうなるんでしょとかどうしたんでしょとか、私は反対ですとか娘からも電話かかってくるとか、寿都町どうなるの心配です。この心配というその部分が、まず13日にあのような形でなぜなったのか。その辺の経緯も私知りませんし、私も説明できる範囲というのは本当に少ない訳です。そういった中で毎日のように新聞報道あるいはテレビ局とかいろんなものが来て、反対のいろんな学者とかいろんな事が来るので私自身、この問題について具体的に賛成・反対とかということは非常にはっきりすることは難しいと思います。12日に町長は取材を受けたんだと思うんですけど、どちらかというところから出るの

は誰も知らない。ほとんどの町民がそうで、私自身も思っていなかった。

町長はそのような形で文献調査という話をされていましたが、いつかはそういう形になるのかなと思っていましたけど、どちらかというところは確かに町長が言うとおりの議会が意見それを踏まえて住民説明会というのがあるのかもしれませんが、ですけどやはりある程度住民の方にも情報が必要ならば、とくかく核のごみがあると大変だね、反対だよとこうなってしまうと中々そこの、私たちはもう年だし、このまま静かに暮らしていけばいいよねと反対してくださいねとか、頑張ってくださいねとか、意味が分からないんですけど、そういった部分で今日ここでどちらと言うことは当然無理だと。もうちょっと性急過ぎる。8月13日に出て9月いっぱいにはそのことの判断をするという、なぜ9月いっばいに判断をしなければならないのかということもできれば町長からお話しいただければ。

町長

おっしゃるとおりだと思います。これですね、丁度前回の全員協議会を昼からやって、若手の勉強会をやりますっていうことで夜に役場と産業団体の若手の勉強会。あのときに誰がああ情報を拡散したかはわかりませんが、SNSでどうも寿都町、核のごみを受け入れるような議論をしているというようなのが拡散されたみたいなんです。それを■■■■の記者が見て、■■■■は本音から言うと他社にこの記事をすっば抜かれたら■■■■も困るもので、私のところに吹っ飛んできたんです。■■■■としては最初にこの記事を書きたいと。だから私は今こういう核だけの勉強会というのではなくトータルの勉強会の中で、原発の勉強もしました、出口の今の核の処分の勉強もしてます、今、まだその状況です。という話をしたら、いきなり記事が寿都町、核受け入れみたいなああいう見出しで皆さんもびっくりしてしまったというのが本当の流れなんです。私とすれば、今の勉強会、議会を含めてあと産業団体の人達含めて、沢村議員、友山議員、越前谷さん言うように、もっといろんな幅広く寿都の状況を現状を、こういう現状ですよと、財政も今はいいかもしれないけど、将来こういう厳しい状況になりますよと。今のコロナの影響というのも当然もう来年から出てくるんですよね。こういうざっくばらんの勉強会を皆さんとしながら、そして、ゆっくりやりたいと思っていた。ところが、こうやって記事に載ると新聞社、テレビ局がばばっときて、知事もワンワン。これ、静かに勉強会出来るかってなったら出来ません。邪魔ばかり入って。だから私は逆に一步前に進めて、その文献の勉強会、皆さん言っていることもっともなこと言ってます。私もそう思います。だから落ち着いて、これを一步前に進んで勉強会を進めましょうよというのが私の本音なんです。だからその次に、今日ここにニューモから文書持ってきていますけど、説明どおり一步ここから進めるときには皆さんが嫌だと言ったら一步進めませんと、ちゃんともらっています。そして、もし、皆さんがオッケーであれば、当然文献調査に

入ります。国からもこれと同じものをいただきます。皆さんが心配しているのは文献やったら最後まで行くんじゃないか、押されるでしょう。弱い立場になるでしょうと心配される。新聞にもそう書いてある。そんなことさせる訳ないじゃないですか。だから言葉だけでは信用できないんだったら、こういうものをしっかりもらって、寿都で勉強しましょうっていうのが私の本音なんです。議論しましょう。本当にこの今の核の金が有る無しに関わらず、沢村さんが言われたのも大事な話です、越前谷さんが言っているのも大事な話。これなくしてこれからの寿都の町、産業振興は語れません。これ基本です。私もそう思っています。そこを皆さんちょっと、冒頭私、友山さんから言われた話、最初に説明すればよかったんですけども、そういう経緯で新聞にすっぱ抜かれちゃったということで、私も結構、動揺しまして、私もこういう性格ですから、いやいや、ただの勉強会だってしらばっくてもいいんです。ただ勉強会をやった経緯をしゃべっただけで。それが今度ワンワン来た時に、やはりこれビジネスとして、こういうビジネスは沢村さん嫌いだっていうのは分かりますけど、これも一つのビジネス。だって今までの私のビジネスだってリスクのあるビジネスばかりです。病院だってそうでしょう。4億の赤字。風車だってあのとき3割成功、7割失敗、失敗したらどうするんだって、すごい不安の中でのチャレンジですよ。来年から診療所も黒字になりますよ、皆さんも知っているとおおり。これ黙ってなった訳じゃない。ずっと努力していますよ。交付税だって、簡単に710万から7300万になった訳じゃない。寿都から語り掛けて厚労省に。10倍になったんです。誰が町のことを陥れます？ずっと努力してきました。これも一つのビッグビジネスです。チャンスです。洋上との関係たまたま時期一緒かもしれない。いろんな戦略あります。この私の戦略に乗っていかれないというのならしょうがないけど。これ乗っていかなかったら本当に大変になる。なっってからでは遅いと。脅かしでも何でもありません。今の日本の財政、皆さん分かっているでしょう。以上です。

友山議員

これは報道によると9月中に町長が判断をするというふうに、記事では書かれているんですけど、それがどうなのか。

町長

それは、私の今の思いです。ただ、議会の皆さんが26日に産業団体の代表の皆さんが、ちょっと待てと、もうちょっと住民説明会やって、そして、皆さんがある程度理解した中で町長の考え分かったよって言うまでもうちょっと時間を置けというのであれば、やぶさかではありません。そこまで私も頑固じゃありません。ただ、皆さん、協力していただきたいのは、外野席がゴンゴン来ます。風評被害、風評被害って。これに皆さん我慢、長くなれば長くなるほど、もっとひどくなります。この声が。それに皆さ

んが我慢できるかどうかです。やめましたってなったら反対派は、ホッと  
して、寿都応援してくれます？してくれませんよね。この町はこの町の人  
で考えていかないと駄目だ。誰も応援してくれない。今までだって困った  
とき誰が助けてました。平成14年、あれだけ金がなかった。本当に大変で  
したよ。命がけだった。あの4億の道立病院いただくにしたって。あれを  
私はチャンスだと。この苦労話ってほとんど皆さんにしてません。並大抵  
じゃないんです。ここまで来るのに。寿都なんてそんなにチャンスなんて  
巡ってきません。少ないチャンスをどうやってとるかというのも、これ私  
の仕事だと思っています。以上です。

議長

幸坂議員。

幸坂議員

まず、3月3日の全員協議会で学習会をどうするかって、くすぐるって  
いう話で、そういうことしたら大変だっていう話をして、これは学習会な  
んだからっていう話を。そのとき議員の皆さん発言していますね。その中  
で議長の発言なんですけど、幸坂議員が心配していることは、まだ全然そ  
の段階ではないと、もし方向性が議論されるとしたらすればいいだけの話  
で、そのとき駄目ですと言えればいい、遙か先にある話だっていうのを私に  
おっしゃいました。町長は、あくまでも勉強会です。この話したからエネ  
庁が寿都にどんどん進めてくるかってなっても、それは違うというふう  
におっしゃっています。そういう中で、議員の多くの方が学習会を進めた方  
がいいっていう形で進めることになってきました。突然変わったのは8月  
7日です。全員協議会で変わったのが。今日の午後これから役場職員と産  
業の人の勉強会しますって、今、全国でいくつかの自治体が手を挙げそう  
で、手を挙げるのが一番でなければ駄目だって、町長が8月7日で言った  
んです。今まで手を挙げるとかなんとか、そんな話じゃなかった。学習会  
なんだという話だったのに、8月7日にそういう話になって、寿都町の方  
針として、お盆明けに方向を出したいとそういうふうに、全員協議会では  
町長発言しているんです。そこで方向は、ぐっと変わったと思います。お  
盆明けに方向出して、今、町長がおっしゃっている9月中に手を挙げるっ  
ていう腹積もりが、町長はすでにそのときあったと思います。そういう経  
過があって、今に至っているということをまず言いたいと思います。

先程から皆さん沢村さんも本当に丁寧にいろいろ説明してくださって、  
私は本当にそのとおりだと思うんですよね。人口減の問題の中で交付税が  
減ってくるんだっていう話がありました。交付税は隣より3億円も少ない  
と町長いつもおっしゃっていますけど、交付税の算定ってそんな甘く算定  
はしないので、それだけの必要性があるってということでの算定がされてい  
ると思います。財政状況厳しいのはどこも同じだし、人口が減っているの  
もどこも同じですけど、本当に小さな村や町でも、その町に見合ったそう

いう運営がされているので、それはやはり町民との話し合いをしていくということが、沢村さんも言ったとおり私もそれが必要だと思っています。そして、町長が最初から9月には結果を出す、結論出すんだって、その拙速さが今皆から批判的だと思うんです。もっと本当に住民もそうですけど近隣町村ともっと話し合いをしていくっていう。そういう時間が必要だと思います。9月に手を挙げるというそんな問題ではないと思います。だからまず、そこをきちんとやってからどっちに判断するのか。判断されるべきだと思います。また、議会で今までこれを話し合ったことがないので、本当に今日が初めてですよ、議会で議論しているのは。エネルギー勉強会やって議会は知っていたのに何していたんだという言い方もありますけど、そうではない、議会で議論されたのは今日が初めてです。そういう意味でもあまりにも町長は急ぎすぎていると思います。26日の意見交換会も私は、こんな重大なものだからちゃんと皆さんに公開してやるべきだっていうことを強く言いたいと思います。

議長

前回の全員協議会でしたかね。文献調査に応募することを検討したいとは言っていましたね、最後。確か議事録に残っている。

町長何かありますか。

町長

まず、皆さんの話を聞いて。

議長

川地議員。

町長

いや、越前谷さんまだだ。

議長

さっき、もう話したんじゃない。

越前谷議員

順番に聞いてくれれば。さっきは役場の方から説明受けて部分について話した。

幸坂議員も話ししていたんですけども、町長あの先ほど交付税のことを話して、隣の黒松内と3億から違うと。確かにそうなんです。でも昔は、交付税の仕組みからいって、人口に重点を置かれてたんですよ。ですから、人口は黒松内と比べて寿都の方がすごい差があった。だから面積は、黒松内は多い、ですけど、そういう人口の差があったんで、黒松内と比較してもそんなに差はなかったし、若干、人口に重きを置いてて寿都の方が多かったんです。ところがどんどん人口が減って、残っているのは面積、それから道路の面積だとか、そういうことに中心が置かれてきて、人口目減りの状態に、国は余り重点を置かなくなってきた。だからどんどん隣町との差が3億、4億というふうになってきてしまっている。それから、先ほど

全員協議会始まってすぐ皆さんに述べさせていただいたんですけど、今回の核のごみ問題っていうんですか、それはどちらかというと重点が洋上風力実現のためっていう、これが前提にあったはずなんです。で、今でも私はそう思っているんですけど、ただそのやり方として当初は国にアプローチしていきたいという状況だったんですけど、こと新聞報道とかマスコミによりますと、どんどんエスカレートしてしまって、洋上風力という前提になるものが、どんどんなくなってしまった。核のごみ、それに集中してしまっているというのが現状だと思います。これは先ほどいいましたように、私は、一旦原点に戻るということで、やはり町長に撤回した方がいいと、やはり近隣のち町村と仲良くやっていかなきゃならない、後志それから北海道とも仲良くやっていかなきゃならない、そういったことを考えると、今日の新聞見ますと、敵対意識というんですか、そんなような新聞見ても思われるようになってきている。ここは一旦、原点に戻るということを考えていたかなきゃならないんじゃないかとそういうふうに思っています。以上です。

議長

木村眞男君。

木村眞議員

いいですか。

私は三つの段階があると思います。文献調査、ボーリング調査、20年後に核のごみを搬入とかっていう段階があるんですけど、私は100パーセント文献調査賛成、ボーリングの方も60から70パーセントくらい、気持ちですよ、ボーリング調査もしてもいいんじゃないかと考えております。20年後の搬入というのは、まだ先のことでフィフティ、フィフティなんですけど、先ほど友山先生も言っていたんですけど、私の友達また知り合い、20何人からいろいろ話を聞いています。結構皆さん知らない人も、分からない人は、何ごみ持ってくるんだ、そういうことばかり言う人もいるが、よくよくしゃべって教えると、ただ文献調査なんだから、ここの地質がどうだこうだっていうことで、そういうふうに言うと納得してくれる人もおります。また、積極的に賛成して、ちょっと話はきついですけど、どぎついですけど、泊の原発のときは漁師の人にそれなりの金を補償金として300万から500万、そういう話も聞いているし、寿都もそれだったら200万から300万ければいいねって、そういう馬鹿みたいな話をする町民もいます。私も人生60年を過ぎてきて、大体あと20年ちょっとかなというふうに考えて、それから寿都のことを考えていくと、さっきの人口推移もみますと、20年から30年後には、島牧村みたいな人口になっていく、これは自然減で。そういうことを考えていくと、やはりいろいろな工場誘致だとかそういうのもやってきたけど、全部ほとんど失敗というか、実りがないという状況で、20年後にそういう施設を

持ってくればきっと人は何人か増えるかもしれないけど、そういうことはまた別としても、私の考えでは文献調査ですから、何もそこに先ほど町長が述べたとおり、断ることもできる。まだまだいろんな選択肢もできるんじゃないかというような感じで、2年間あったらまだ勉強もしながら、いろいろな勉強をして、町民説明会だとか、また町長からは例えば、20億ないし、その後の70億、全部で90億くらいのお金が入ってくるとしたら、そのお金をどのように町民に還元というか施策していくのか、いろいろな説明会だとか、そういうのもって、町のビジョンだとかを広めていって、町民に説明してほしい。まだまだ毛嫌いしている町民も結構いますし、すぐ、ごみ持ってくるんだべってというような意見もあるんで、そういうことを払しょくしていきながら、私の知っている人の中では、60パーセントから70パーセントが文献調査には賛成だという考えを持っている住民も結構おりました。私もそのような考えで先ほど言ったとおり、3つの段階、ステップがあると思うんですけど、100パーセント私は文献調査の方に賛成してみたいと思っております。以上です。

細かい話はたくさんあるんですけど、自分の気持ちとかそういうところは説明させていただきました。

議長

木村親志議員。

木村親議員

自分は漁業協同組合の団体の長という立場と議会議員という両方持っています。13日に新聞報道で出たときには、さすがにびっくりしました。この時期にこういう報道がされるといったことは、当然驚きましたし、ただそれが、さっきも町長説明したし、いろんな話の中でも聞いた限りでは、こうせざるを得なかったという部分と、まあ期は熟したのかなという部分の狭間に立った中での町長の新聞報道だったというふうに私は理解しています。

それで、報道後にすぐ翌日14日に、隣の小樽地区の会長である■■■■氏が、これは一大事だということで、今まで4か月、5か月、地区の組合長会もコロナのせいにして、まったく開かず書面決議でやってきたにもかかわらず、お盆の14日に小樽地区に全組合長集めて緊急抗議だということで、その部分については、私は地区の組合長会の会員として、賛成して全地区の全漁業協同組合長が判子を押して、今日実は9時から抗議文を町長のところで手渡して、まあいろいろ町長とも懇談しました。町長の懇談の説明は、さっき皆さんに説明したとおり、同じ話をしてくれました。

そういったことで、町長は今までもそうだし、これからもそうだと思うけども、まったくブレていないし、一貫して町を良くするための最大の施策だというふうにいるんだからこういうふうに出てきたと。私はそういうふう理解しています。ただ、その文献調査に入る、それから概要調査に

入る、その後の精密調査に入る、これ20年間かかります。その中で文献調査に入りながら、いろいろ議論を重ねていきたいという町長の思いも私は分かります。ただ、浜の声をやはり私は聞かなければならない、いう思いもありまして、25日の日に理事会を開催して、理事の方々の意見を聴取して、そして組合の考え方を26日に持っていきたいという思いでいましてけれども、ただ、理事会だけで判断して、その思いが伝わるかというのも心配だし、14日以降、浜で若手の方々それから年配の方々、いろいろ回って今になっています。それで先ほど役場の事務局の方から人口推移と将来の財政状況の中で、アンケートというか若手を集めた説明会のパーセントがさっき出されたし、これから資料も配られると思うんだけど、意外だなというふうに思ったのは、若い人が大変さに気付いているということでもあります。それは私が浜に行ってもそうなんです。年配の方々是比较的、核の受け入れについては総じて反対するものの、若い方々は組合をこれからの漁業をしっかり守っていただく施策があれば、してくれるのであれば、ありがたい話だと、こう言ってくれる若手の漁師がほとんどです。それで、私は26日の理事会には慎重に考えていただきたいというふうな方向で進めようと思っていましたけど、今はもう白紙に戻して、喧々諤々なってもいいから、どういう方向で行ったらいいか議論したいなというふうに思っています。それで、内輪の話をすれば、皆さん町議会議員なんですけど、組合は、町の財政が後5、6年、大丈夫けれども、組合の財務は、もう持ちません。あっぷあっぷです。今現在。いろんな町の手助けがあって、いろんな資産取得諸々含めて、それを今度維持していくのに大変な状況になっています。

だから俺は、寿都の漁業を守ってくためには、やはりしっかりした、これからの応援もお願いしたいという思いもあります。

ただ、今度は町議としての立場もごさいます。町民の幅広い考え方こういったのも吸い上げれば慎重に進めていくべきだというふうにも思っていますけども、ただ私は、町議である前に団体の長だという思いで120名の組合員をこれからしっかり支えていかなければならないという思いの方が強い方です。そういったことからこの文献調査、概要調査こういった部分に対しては、慎重に議論しながらも入っていくのが寿都町のため、漁業のためこういう思いも強くなってきています。

議長

川地議員。

川地議員

今回のことで、まず国民の皆さんが核のごみについて考えることになったのは大変いいことだと思います。だけど、僕個人的に言えば、反対です。けども住民説明会だとかをとおして寿都町民の皆さんが推進するとなれば、それを応援したいと思います。以上です。



議長

副議長。

副議長

前にも話したことあるんですけど、そもそもの話。この原子力の政策の問題がまず一つです。結局はトイレのないマンションといわれている、日本の原子力の政策でございます。皆、それで起きた電気を使っているんですけど、その始末が決まらないでその政策を進めたというのは大問題なのかなと思っています。いつかは、宇宙に飛ばすのか地層にするのか、それともどうなるかは分かりませんが、でも原子力は自分たちの発生させたものは自分たちの責任で考えていかないと駄目なのかなというのが基本的な考えでございます。この間、幸坂さんが日本で発生したものは、いや違うな、日本は地震列島だから地層処分はやはりふさわしくないとはいいましたけど、これはやはり国際法で決まっていますので、その国で発生したものは、自分の国で処分するということに決まっていますので、それをこれから進めていくべきだと思います。

今、これからこの町のことなんですけど、つい先日3000人を割ってから、1年足らずで2900人です。それだけやはり過疎化が進んでいるということです。やはりここで何か手を打たないと駄目なのかなと感じています。さっき沢村さんが、その身の丈に合ったとは言ってますけど、寿都町だけじゃないですよ、国の政策が悪いって言っちゃあそれでおしまいなんですけど、地方はどこも困っています。どこかで、ここで何とか考えてもらいたいんですけど、そういう動きは今すぐは動かないだろうと思って考えています。ですから、これからうちの町が若い世代に継承できる、それなりの町を残していくってことは、何かの財源が必要なのかなと考えています。私はそういうふうに思っていますけど、皆さん核っていうとすぐ反応するんですけど、この間、木村さんが行ってました、組合長会議で■■■の組合長さんが、あれっと思ったんですけど、私たち泊原燃が動くときに、じゃあ私たちにあったのかと。でも実際、泊原燃もそういうときに風評被害も受けているはずなんですけど、あと■■■の観光協会長が同じようなこと言って、もう私たちは泊をしょってるんですよ。そういうふうに思えば、風評と騒ぐのはおかしいと思って考えています。

やはりこれから、若い世代に継承するためには、ある程度の財源、この町の生き残りをかけたですね方策が必要だと考えています。それと今の文献調査、その次の概要調査ですか。さっきちょっと示してましたけど、報道を見ているとね、報道を聞いていると、その文献調査入ったら最後までやるようになるって言われているんですけど、そうじゃない。やはり一つ一つその段階で、皆さんで協議して物事を進めていくのが必要なのかなと考えております。今、これだけ全国を騒がせております。でもこれが仮にうちらがこれを拒否した場合は、日本の原子力政策は、まず停滞するでしょう。

と思います。やはりここは、勇気を持って、文献調査を進めていくことが必要と考えております。私ははっきり申します。私はこれを推進するのが必要かなど。ただ段階的には最後の核を入れるか入れないか、そこまで話していないんだけど、なんかおかしい報道が皆そんな方向に持っていくからすごく腹が立っています。私は今の時点では推進していくことが必要と考えています。以上です。

議長

はい。私はあの議長なので、誘導するようなことは言いたくないんですけど、今までの感じたことは、この件について、まず、報道がなんといいますか、すっぱ抜かれたというんですかね、報道が先走ったために、ずっと説明会をするつもりだったんでしょけど、それが先走ったんで、知らない町民が、一杯いるというのは事実です。これは、これから説明会やらやっていく中で、反対の人は反対、あるいはもう賛成という人もいるでしょう。今、考えている人、熟慮している人もいる。こういう人たちに説明をして、意見を聞いていくべきだと思います。逆っていう印象があるんですけど、しょうがないですね、これはすっぱ抜かれてしまったからという。個人的な印象ですよ。あと一番私も副議長と同じで腹が立つのが、あらゆる報道が文献調査イコール最終処分場という形で世論操作しているんでないかなって気はするんですよ。つまりね、町長の説明あって三段階ありますから、それでまた、それぞれの協議もあるでしょうけれども、そのときにまた町民がオッケーとならないと、当然、前には進めない法になっていますからできない訳で、北海道には最終処分場は、核のごみは受け入れがたいという条例があるそうです。これは条例をじゃあ変えるかってなったら、恐らく知事も議員もそれを変える勇気は恐らくないでしょう。条例がある以上は、政治的にも無理だと私は思っています。それで、現実的に我々もあと、鈴木知事に抗議してもいいくらいだと腹立っていますけど、鈴木知事もこのような論調なんですね。そして、我が町長と向き合って話をすればいいものを本人会いました？会わないんでしょう？逃げて、他町村の町村長とは会い、そしてメディアを使って寿都町に圧力をかける。また、メディアを使って個人的にも圧力をかけているように感じるんですね。これは非常に何と言いますか卑怯なやり方であり、文献調査までは知事の権限は全く及ばないにもかかわらず、文献調査に入った場合は核のごみを受け入れることになるから駄目だというようなことは、寿都町民を馬鹿にしていることなんだけど、これ文献調査は寿都町民が決めることで、寿都町の自治の問題です。誇りある寿都町民は怒った方がいい。あなたの口出すことじゃないと。私はそう思います。それで、次ですね、内容をこれから先にですね、当然新聞報道が先ですから分からない町民がたくさんいるんですよ、実は。友山議員も申してましたし、そういう人たちがいっぱいいるんで、これから説明会をとおして町民が、寿都町民が決め

副議長	<p>ることです。寿都町民の考えや意見を聞きながら町長が政治的決断を下すということですから、その意見を十分に聞き、また説明して、その中で町民がどう判断するかになるんじゃないですか。そう思います。もちろんそういうのも聞きながら、議員は議員としての判断はあるだろうと思います。</p> <p>ちょっと、一つ忘れてた。</p> <p>町長前から説明しているとおり、この核の今のエネルギー勉強会の中でエネルギーですから、今は核の問題を皆さん処分場の話をしている。私は町長が初めからいっていた洋上風車をやはりこれと上手くやって、そっちに繋げていってほしいなと。これはやはり私は思っています。</p>
議長	<p>いいですか。もう一つ言い忘れたことあったんですけど、泊原発30キロ圏内に町がかかっている現実があり、また泊原発は我々の世代で受け入れたもので、我々の世代で道筋をつけなきゃならない、それは当然責任だと思うんですけど、実際に泊から核のごみが出るんです。じゃあ、これ北海道で誘致して、北海道知らないよっていうのは非常に無責任だと私は思います。知事はむしろ率先して、この核の問題に取り組むべきなのに、まったくもって、責任逃れしているなという印象がありますので、その辺も私は実際にそこにある訳ですから、それは議論を喚起するにはいい機会となると思っています。</p> <p>はい、幸坂議員。</p>
沢村議員	<p>議長、私が先でいいですか。</p>
議長	<p>いいですよ。幸坂さんいいんですか。では沢村議員。</p>
沢村議員	<p>私から、補足で2、3お話をしたいというふうに思います。</p> <p>まず、一つは、俺だけがそう思っているのか、皆、誤解しているのかどうか分からないんだけど、それはそれぞれの受け止めだろうから。私の方からちょっと自分の考えとして。高レベル放射性廃棄物の処理場、いわゆる核のごみの処分地です。これを受け入れるから文献調査があつて、概要調査があつて、精密調査がある。それぞれの節の中で、手を挙げるのは今は俺は反対しているんだけど町長は手を挙げる。だけどこれを止めるのは、産業団体の意思であつたり、町民の意思でなければ止められないんです。これはおかしいと思うんです。町民の意思でやめるのであれば、先ほどもいったように、きっちりやはり住民投票をやって、それでやらないと一番誤解するのは文献調査だけが最終ごみの処分地を入れるか入れないかの前にあるような話で、これだけで20億、町長のインタビューの中でも概</p>

要調査するとき70億、合計90億、これはビジネスチャンスとしておいしいですよ。っていうのがあるんだけど、私は必ずこの文献調査に入ったら、核の最後のごみ処理まで経産省がやりますよ。なぜか、適地だって認めているんだから。産業省が。寿都は適地ですっていつてるから。適地なのに入れないうてことないですよ。その文献調査をやり概要調査をやりながら、最終のときは20年かかるっていうけど、経産省はどんなことしたって、90億も払ったら最後ああそうですかって引き上げる訳がない。そして、寿都町は適地になっていて、スペースがどうかっていうのはあるよね。だけど、経産省が100パーセント求めるスペースが、あるかどうかとしたら、20でも30でもそのスペースがあったら、処分場にしてしまいますよ。ここのところが、私は文献調査に入ったら駄目だっというの、そのことなんです。文献調査だけ入ってお金20億もらって、概要調査に入って70億もらって、最後は駄目ですなんてことには、そりゃ適用外ならいいけど、適用外ってのはやらないことだからいいんだけど、ここは適地なんですもの。やっというよってところなんです。ごみ処理場もやるよって。それが経産省が、ずっとやってきていて、それをやるなんてことは、まず一つね。私もきっちり申し上げておかないとやはり、後々、問題が起きれば困る。

二つ目が、先ほども言ったんだけど、越前谷君からもあったけど、私も洋上風力の立案企画したものや文書っていうもの一つもない。例えば、岩宇と南後志で洋上風力やるんだけど、どういう団体がどういう目的で何をあれっていうのが一つもないんですよ。誰か持っています？これを出してほしい。これが一つ。それからもう一つは、これに関連して高レベル放射性廃棄物の処理場を作る、これの紙一枚ないんですよ。議会で議論する全員協議会で議論する、何か町の施策として出てくるものに、紙がありますか？目的が。こういうものもないで議会に議論させること自体、ましてや町民にそういう目的や何も示されていない中で、ただ口頭で言葉で財政が大変だから、これを入れなきゃならない。私は一議員として、あるべき行為ではないと申し上げておきたいと思います。

それから、もう一つ。さっきから出ているんだけど、風評被害の問題ね。町長は、言っているやつが俺らば応援してくれるかって。町長やはりね、この近隣町村や後志の町村会の副会長ですよ、やはりちゃんと寿都町民を風評被害から守るんなら、あなたが道に行ったり、後志の町村会に行ったり、隣近所の町村にちゃんと行って、説明をして。勝手に言って勝手に批判しているというようなことではやめてほしい。我々も町民だし、議会議員なんだから。町長のやっていることは、それはちゃんと対応するのが、対応するように自らが行ってやってほしい。このことだけは言って、以上。

議長

とりあえず、一回りした後だったんで、町長に。

町長

いや、まだ手が挙がっている。

議長

いいですか。幸坂さんどうぞ。

幸坂議員

私も今、沢村議員がおっしゃったことも私も同感です。その中で、皆さんの議論の中で出てきたんですけど、自国で作ったものを自国で処理すべきだっていう副議長の話ですけど、今その処理の仕方がね、地中に埋めるっていう処理の仕方が世界中で、今、見直されてきているんですよ。今、フィンランドだけは埋めることになったけど、ドイツはすでに地中の処理っていうのを見直しています。それで今、出てきているのは、高いところで本当にそこに置いて空調などをちゃんとして管理するっていう。地中に埋めてしまっただけでは、後はどうなっても分からないということで、あまりにも危険だということで、今処理の仕方が変わっているというのが一つあります。詳しくはちょっと述べませんが。

あとこれを拒否すれば、日本の原子力政策が終わってしまうような話がありましたけど、これは、私たちが押し付けられるべき問題ではないんです。国が、私たちが反対していてもやった事業であって、そこで出てきたごみがあるんだからどっかで引き受けなさいっていう問題ではありません。ぜひ、国はその反省をちゃんとして、反省するなら原発も止めなきゃいけないと思います。まだ、こういう姿勢が国に求められると思っています。それと議長がおっしゃった、寿都町の自治の問題。私は全くそのとおりだと思います。議長とそれだけは一致します。だけど、沖縄を見てください。住民がいくら反対したって辺野古の基地は軟弱地盤で作っても使えないって言われているんですよ。

(あまり飛躍しないでとの声)

飛躍でないですよ。国はあそこにもものすごいお金を投入しているんだから。それと一緒にだと思えます。先ほど沢村さんが言いましたが、核のごみを受け入れるからの文献調査で、文献調査だけ受け入れるっていうのは、それ詐欺じゃないのって町民も言っています。だから、そういうことなんかもぜひ考えて行動していただきたいと思っています。以上です。

議長

私、個人的に議長としてでなく一議員として、我々の時代として後志に受け入れて北海道に受け入れておいて、それでごみは知りませんっていうのは、議論はすべきだと。入れる、入れないじゃないですよ、こういう議論は後志全体の危機感とか問題意識を共有しなければならない、北海道も共有しないとかならないなど。

沢村議員

議長、もっともなように聞こえるけど、寿都がその泊原発の核の処理を

議長	<p>なんで、うちらが受けないとならないの。後志で議論したり、北海道が議論すること。あんた何考えてんの。</p> <p>それは別問題として、後志や我々の世代で前向きに考えていかないとならないんじゃないかと。</p> <p>越前谷さん。</p>
越前谷議員	<p>あといろいろありますけど、一点だけ。</p> <p>町長が先ほどからいっているのは、はっきり言いますとお金をもらって、はっきり言ったら核のごみはいないんだと。今の段階でいうと文献調査だけやって、お金もらったらもうやめるんだと。概要調査の方までなんか新聞でいうとありますけど。最初からお金もらって、やめますっていうことが国に言えることなのか。それからもう一点、最初っからやめるっていうことが分かかって、国にそんなこと考えて言えるんだろうか。お金20億のためにはっきり言ったら核のごみの処分を受けるっていう返事だけはしますよって。そんな簡単なことなのかどうか。文献調査賛成の方もいますけど、私は先ほど沢村議員が言ったように、一つここでオッケー出してしまったら、子々孫々後々まで続くことだと思うんです。幌延だって一旦受けてから抜けるまでどれだけの年数掛かってますか。</p>
議長	<p>越前谷さん、二つあると思うんです、心配なところは。一つは、整理して考えないと。</p>
副議長	<p>越前谷さんの話もう終わったの？</p>
越前谷議員	<p>私？いいですよ。</p>
木村眞議員	<p>町長の話。</p>
町長	<p>これね、私今までビジネスっていう言葉、相当使ってきたかと思います。この私のビジネスに賛同できるかできないか、これも一つの分かれ道だと思います。</p> <p>今回、人それぞれの考えありますけども、洋上風車に有望な区域の一手前です。準備が整った区域。これ、この絡みなかったら選ばれません。多分。引っ掛かりません。沢村さんが言われたように今の南後志・岩宇7か町村、まだ正式な協議会ってできてないんです。今までは、準備会って。準備会の考えで7か町村から道を通じて国交省、エネ庁の方に申請上げたんですよね。それで、まだ事業者も全然決まっていません。最初のスタートの意見書を出しただけなんです。普通だったら選ばれません。今、桧山</p>

みてごらん下さい。何年も前から [ ] が入って、調査もして、あそこは漁業が合併して一つです、あと3つか4つの町村が海域を選んでもらおうって言って、相当前に進んでいたのがっちりスクラム組んでます。だから通常だったらあそこが今年、有望な区域に選ばれたかもしれませんが。ここが、それこそ片岡流ビジネスなんです。だから私は国から粉なんて掛けられてません。私、国に粉掛けてるんです。洋上を北海道一番に選ばれたい、選ばれなかったどうなるかという、1年遅れ、2年遅れになる。今、洋上の単価は36円ですけど、国は30円以下にしたい。入札で。どんどん低くしたいというのが国の考え。民間は少しでも早くやって単価を上げて利益を出したいと思う。利益が少なくなってくると協力金も少なくなる。ここを早く獲らなかつたらならない一つの材料に、私はこの勉強会ってというのは有効だなんていう説明も皆さんに全員協議会でさせてもらいました。これ、したらこれやめますっていったら、うちほとんど洋上の方できていません。完全に出遅れて、2年、3年遅れちゃったら魅力ありません。この前浜。1円違えばなんぼ違うと思います。全部そういうのもビジネスなんですよ。だから私を信用できないっていうんだったら全部やめます。洋上風車ももらえないでしょう。それで寿都が生きていかれるんだったら。霞食って生きていかれるっていうんだったら霞食えばいい。本当に町民それで幸せになるんでしょうか。本当に少ないチャンスはどうやってものにするか、大変ですよこれから。以上です。

(休憩を求める声あったが続行)

今の陸上風車だって、皆さん御存じないですか。最初、[ ] は600キロ3基しか駄目だったんです。これを今の1万6000まで引き伸ばすのにどれだけ、これビジネスです。[ ] とのやり取り。ビジネスで勝ち取ったんです。道立病院もそうです。道から勝ち取ったんです。あのとき道は風車やるっていったら何て言いました？そんな危険なことやめろって。そしたら4億の赤字を寿都に押し付けて、寿都の財政心配だって、4億の赤字引き受けろって言うておいて、金儲けしたいから風車やりたいっていったら、やめなさいってというのが北海道でしたよ。そこも全部、北海道を説得して、金も借りる、誰がやったんですか。これから本当に大変な時代になりますよ。

沢村議員

ちょっといいかい、議長。

今、町長言われるんだけど、脅しとほとんど同じだよ、それ。行政マンなら行政マンらしく。で、あんたね洋上風力やるときに経産省をくすぐるって言った。なんで原発のごみ処理になるんだ。あんたくすぐって、くすぐられてるんじゃないか。

(町長：全然)

文書見てごらん。

町長	私は、くすぐられていません。
沢村議員	くすぐるって話が、なんで放射性廃棄物・・・
議長	ちょっと待ってください。冷静になってください。沢村議員、あんたといういい方はやめてください。ちゃんと町長といってください。
沢村議員	そう。申し訳ない。
議長	休憩させてください。  (今日何時まで?などの声、時間を区切ってなどの声)
副議長	<p>ちょっと提案なんですけど、ここの会場が1時くらいまでしかとっていません。それで、大体皆さんの考えも出てますので、ずっと討論していても同じようになると思います。それで、26日また産業団体といろいろなありますので、そのときに自分たちの考え方をもう一回示していただきたいなど。さっきから聞いていると堂々巡りに戻ってますので、ちょっと時間を区切って。その時点で終わるか、あとに今みたいな形で意見交換したい人はやっていただいて。1時になったら学童でやるってことになってますので、皆さんそれぞれの考えが出たと思いますので、そういう形で行きたいと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>それから、帰りは報道機関が待ち構えております。気を付けてお帰りください。今日これが報道機関に流れるともっと何というか混乱するから、今日の皆の意見は出したことは、口外しないようにした方がいいと思いますので。</p>
沢村議員	対策きっちりしておいた方がいいと思う。
町長	<p>多分、私に聞かれると思います。こういうふうに説明します。今日は、この説明しましたよね、人口推移と財政状況。こういう説明の中で、もっと丁寧に住民に説明した方がいいんじゃないかっていう意見は出されました。この今の文献調査に対する云々という話は今日は控えました。雑談の方が多かったですということで、あまり触れないように説明したいと思います。変に触れちゃうと賛成がどんな意見、反対がどんな意見とまた書かれちゃうんで、あくまでも寿都の将来のこの人口推移、財政状況そういう細かな話を今日はさせてもらいました。そこで時間が経過しましたという話し方でよろしいでしょうか。</p>



越前谷議員	僕はおかしいと思う。
幸坂議員	私も。
町長	前向きな意見もあったし後ろ向きな意見もあった。その後、文献調査に対する前向きな意見、後ろ向きな意見。賛成・反対ありましたと。
議長	今おっしゃったとおり、一番難しいのはプレス対応で、ちゃんとそのとおり書く訳でもないし、言っても、例えば誰賛成、誰反対って、個人攻撃に派生していったらうんで、そういうことはね皆さんの良識の中で判断していただきたいと思います。十分気を付けて町長は話すると思います。それと、それぞれの皆さんの考えや立場も分かりましたけど、今、見て一番良かったのは、休憩中の町長の話をお皆で聞いて、ざっくばらんに、非常にいいですね、こういうの。もちろん議会としての激論も大変歓迎するところではありますが、休憩時間にはまた違った、本来の会議では話せないようなことも話してみるのもいいなという気がします。そういうことも含めた私の感想であります。これでまた26日に説明会やって、その後も住民に説明する機会はあると思うんです。それらも。決めるのは住民ですから。反応も考えながら、その中で我々も判断していけばいい、その上に立った町長の政治的判断になると思いますので、その辺は。
沢村議員	<p>その他でいいですか。</p> <p>新聞報道によれば、住民説明会300から400集めてっていうふうに掲載していた。それで、今コロナで密の対策がいろいろある中で、そういう感じのできるかなというのがちょっとあるものだから。提案としてはできるだけ9月の中旬までというのであれば、私は各町内会を代表して町内会の各会館でそれぞれ、ある程度10人、20人集めてやるような仕組みも検討してほしい。とてもじゃないけどここに300、400入る訳ないし、新聞報道が正しいかどうか分からないけど。町長がそう言ったって書かされたから。</p>
町長	一気にここでやりたいなって。
沢村議員	町として住民の声を聴くのであれば、各町内会で町内会長などの役員も活用しながら多くの人を集めて、密にならない程度にさ。そこから意見を聴いてほしいなという要望を申し上げておきます。
議長	受け止めてください。

幸坂議員	はい。私も要望しました、26日公開してほしいってことはどうなんでしょう。大事な問題なので公開してほしいって。
議長	それは執行者側が判断すること。
木村眞議員	議員はいいけど、産業団体の人たちはまずいんじゃない。
町長	私はですね、やはり木村議員が言われたように産業団体の方々がざっくばらんな意見をしゃべりにくいでしょ、カメラ回されたら。顔も映るし。だからそれは控えさせていただきたいと。そこでどういう話になったかはちゃんと公表しますから。終わった後に。そうやって私は皆さんに説明しています。
議長	友山議員。
友山議員	分からないので聞きたいんですけど、今、住民説明会10日ということで、住民の意見を踏まえて、その後、どのような形で町長さんが判断をするのか。その後、議会が9月8日から23日ですか、その間に議員への説明とか、何か議案にはならないんでしょうから、その辺の議会にもう一度、最後議員が判断をするというのが出てくるのか。ちょっと議会のことが分からないので、聞きます。
町長	今日のお話、議員さんの聞くとどちらかというと心配だという意見の方が5ですよ。個人的には反対、けども皆がいいって言ったらいんじゃないかって。積極的な意見と心配だなという意見と4対4で半々。川地さんだけが、個人的にはクエッションだけど、皆がいいというならいいんじゃないのって話でしたよね。今、拮抗しているんです。けどこれ今日すべてではありませんけど、産業団体の若い人たちも、それがすべてではありませんけども20名中15名前向き。5名が行財政改革。そこを75パーセント前向きなんです。役場職員も60.9パーセント前向きなんです。そして皆さんもしこれから住民説明もやって皆さんが仮に前向きな意見が多かった、けど議会が反対でしたってなったとき、私そしたらどう判断しましょうかっていう話になると思うんです。
沢村議員	それはやめた方がいい。そのときはやめたほうがいい。
町長	けども住民望んでいるのに議会が反対だっていうのも変な話ですよ。率直な話。

友山議員	<p>だけど、議会が反対している訳でもないですよ、今。</p> <p>だから最終的に議会の中でどのような形でそういったことをされるのかという。8日から23日までの間のことって初めてなんで分からないので、その辺がちょっと教えていただきたい。</p>
町長	<p>ですから、沢村さんの意見を尊重して考えたときに、果たして9月の10日に全部集めてやる方がいい決断なのか。判断なのかって考えたときに、やはり住民説明会っていうのは細かく各地域でやるというのも一つの方法だと思う。磯谷、美谷、歌棄、樽岸、湯別、そして町内と。こういうきめ細かな説明会を検討しなきゃならないかもしれない。その中で皆さんざっくばらんに聞いた。核のごみやるって聞いてた住民も多いと思うのでそこもちゃんと説明して、そして、その中である程度意見交換しながら私判断させてもらって、最後にまた皆さんに色んな団体の声、地区別の懇談会の中でこういう意見、声を聴いた中で私はこう判断したいと議員の皆さんに、了解を、もし前向きになったら。前向きになったとしても後ろ向きになったとしても私の判断を議員の皆さんの前でしゃべって、それからメディアに公表。進むんだったら経産省にも連絡。進まなかったら進まない。そういう段取りが一番、紳士的なやり方なのかなと思っています。</p> <p>そういう形でいいでしょうか。</p>
議長	<p>私も思いますよ。沢村議員のいうとおりでできるだけ、アンケートとかっていうのは数が多いほど正確っていうのがありますから、そうやって例えば、数字がはっきり出れば。その辺も町長がいったように議会が反対ならばたして議員が住民の意見を代表しているのかといういろんな議論もできます。そういう数字もある程度汲むためには、少しでも多く対話を重ねてもらいたい。慎重に判断してもらいたいと思います。</p>
沢村議員	<p>あの、一つだけ。</p> <p>これだけの大きな課題だから、私は最終的に前にするも後ろにするも、やはり住民投票はきちっとやってほしい。なぜかしたら会館に参加する人、しない人、発言できる人、できない人、いろんな思いあったってそう簡単に議員と同じようにしゃべれるかっていったらしゃべれないと思う、いいにつけ悪いにつけ。進めにせよ、下がるにせよ。だから最終的にはこれだけ大きな案件だよ。天地ひっくり返るような寿都町においては。だから住民の全員の声を住民投票でやるという答えを町長きちっと出してほしい。そのことをやらないで意見だけ聞いたら、賛成の人のいろんなものが出てくると思うから。</p>

越前谷議員	今、沢村議員が話してましたけど、私は、すごい大きな問題だと思っています。今までの診療所開設、それから風車の関係なんかも見て、今までは、議員の場合は議員全会一致なんですよね。ほとんど。これだけの大変な問題を抱えてて、意見もそれぞれ分かれていて、全会一致にならないでやっていくこと自体がおかしいと思います。
木村眞議員	越前谷さん、これは国策の絡みあるからさ。全会一致はできない。党派の皆、考えあるから。
越前谷議員	木村議員ね、全然勉強も我々していない。
木村眞議員	だから、文献調査で…
越前谷議員	だから、それらについて議員全員でやはりこれからも勉強していかなきゃならない。ただ勉強会開いたからでなくて、皆の意見を聞きながらどうしていくかってことを考えていかなきゃならない。それ、全く何もやらないでっていうことなんだから。でも、今までは何の町政やるにしても町長から話があったとき、皆話してそして、全会一致でそれじゃ、町長いうように進めていこうかって。これで進んできたんじゃないですか。意見がバラバラの状態の中で、町長いつているからって賛否でやります、そんな話になるような問題ではないと思うんです。だからこれは、さっき沢村議員言ったように町民にも説明をして、とことんまでちゃんとやって、そうするかっていう。時間はかかるかも分からないけど、私は、これは時間かけてやっていくべきだと思います。
幸坂議員	簡単に。
議長	もう時間も…きりないですよ。
幸坂議員	いいです、少しだけ。いや学習会はするっていうことでやってきてるけど、ニューモの学習会しかしていません。もっと違う観点からの学習会も私は必要だと思います。それだけ。
議長	最後にしましょう。
木村眞議員	私町長の方に。住民説明会を行うって感じありますよね。先ほど話に出てくるんですけど、飴と鞭じゃないですけど、何かビジョンみたいなのであれば、また町民にそういう説明できるものがあれば。例えば20億入ってきて、町の借金になんぼ使って、そういうようなお金の振り分けだとか施

策の方にこういうふうなお金を使っていきたいとか。そういう町民に分かるような説明もできるのかなど。要望というか考えです。

町長

あの現実的にですね、先ほども冒頭、大川課長の方から説明したように、寿海荘一つとったって、12億くらいかかる。これが起債が全部付くか付かないか。もし起債が全部付かないってなったとき、持ち出し一般財源ですよね。10年以内に最初40億って皆さんに説明したごみ処理センターこれが60億にどうもコンサルに相談していたらなりそうだと。これを仮に3等分したって、寿都が一番負担が多くなると思いますけど、3分の1にしたっていったって20億ですよ。この借金も抱えてきます。そしたら夢のある話というよりも、今の産業形態をどうやって維持するか、そして夢の話は、新たな農業にしても投資してそれなりの話になるのか……。また今、光ファイバーケーブルが全線オクケーになる。そうしたときには、そういう誘致も含めて新たな企業が来るだとか。それだって迎えるためには、ただいらっしゃって、何もなくて話にはならないし、やはり経費は掛かると思います。だから私は、今の20億、70億いただいたって、バラ色になるなんて夢にも思っていない。今、ある現状を維持するだけでも大変だと。まず現状維持しながら新たな部分というのは皆さんと協議しながら、焦らないでゆっくり協議しましょうと。夢は、いや私がもっといろんな発想、力があって、披露できるんならあれですけど、そこまでの能力ありません。だから皆さんと夢の実現に向けて若い人も含めて協議しながら寿都町のまちづくりについてしっかりやっていきたいと思っていますし。だからこれ本当に、最初のその、何回もしつこいようですけどビジネスとしての感覚、この私の感覚がずれてるって言われればもうおしまいなんですよ。私は、今ビッグチャンスだと、洋上についてもトータル的にね。そんなもの要らないって、貧乏の方がずっといいやっていうなら、その道も選ばざるを得ないし。皆さんがそうやって言うんであれば。二つに一つしかない。ここは、多分沢村さんとは議論したって噛み合わない部分です。

議長

よろしいですか。そういうことで、今日のところは、これで全員協議会を閉じます。あと先ほど言ったようにプレスがいますので、それなりにきちとした御迷惑をかけないような対応を。

これで今日の全員協議会は終わらせていただきます。

どうも御苦労様でした。

